地域を再生させる木の駅プロジェクト
－東北地方への普及と山村の振興をめざして－

東北公益文科大学　梅津直樹

□推　薦　　指導教員　呉尚浩

本論文を執筆した梅津直樹さんは、森を愛する青年で、呉尚浩ゼミにおいては、山形県庄内地域の海岸林保全を中心に活動し、森林関係の仕事へのインターンシップを経験するなどテーマを明確にして活動を続けてきた。卒論のテーマにおいても、自ら森林に関する「木の駅プロジェクト」について深め、プロジェクト各団体へのアンケート調査なども自主的に実施し、また分析方法なども工夫をするなど意欲的に取り組んできた。

近年、日本の林業は衰退し、森林整備がなされない森林が増加する中で、森林環境税の導入による整備の推進など、全国的にさまざまな取り組みがなされている。その中で、最近注目を浴びているのが、全国に広まりつつある「小規模自閥林家の人が山に放置されている残材を搬出するのを支援すると同時に、 支払いを地域通貨で行うことで、地域経済の活性化を図る」という「木の駅プロジェクト」である。

本論文では、木の駅を推進していく上でのメリットとデメリットについて、全国の木の駅プロジェクトへのアンケート調査、および東北地方で 2 ヶ所のみある山形県白鷹町と秋田県二ツ井町へのインタビュー調査をもとに、調査、分析を行っている。その結果、「林地残材の減少」という点では、どの木の駅においても効果が明らかになっているが、その結果地域の経済活性化や人口増加につながるほどの大きな効果をもたらすには、まだまだ時間がかかるだろうことも見えてきた。

梅津さんは、卒業後も森林関係の仕事に就職されるということで、在学中に学びを深めた森林保全についての知識や経験を、ぜひとも活かしていって欲しいと願っている。